

会議名	令和6年度（2024年度） 第5回 宝塚市子ども審議会			
日時	令和6年（2024年） 2月21日（金） 午前 10時30分～午後 0時00分		場所	市役所 政策会議室
出席者	委員	伊藤篤、中谷奈津子、松島京、治部陽介、大西登司恵、西澤千夏、石井宏尚、藤由貴、田中誠、山本發生、山田慎治、藤井真人、秦忍、榊井ひとみ、池田尚子、ベルテッリかおる、藤田かおり（敬称略） 計17名（欠席4名）		
	事務局	子ども未来部長、総括担当及び子ども家庭担当次長、子ども政策課長、同係長、同係員		
	拡大事務局	たからっ子総合相談センター所長、子育て応援課長、子ども発達支援センター所長、保育企画課長、同副課長、保育事業課長、アフタースクール課長、子ども総合相談課長、家庭児童相談課長、健康推進課長、障害福祉課長、せいかつ支援課長、学事課長、学校教育課長、幼児教育センター所長 代理出席：子ども家庭支援センター係長 計16名（欠席2名）		
会議の公開・非公開		公開	傍聴者	なし
内 容（概要）				
1 開会				
会議の成立及び公開について 事務局： 委員21名のうち17名出席 宝塚市子ども審議会条例第6条第2項により、委員の過半数以上の出席があったため会議は成立している。 当審議会については公開を原則としている。本日は、傍聴者はなし。				
2 議題				
(1) 宝塚市こども計画たからっ子「育み」プラン（案）のパブリック・コメントの実施について ○事務局から、資料1、2-1、2-2、2-3に基づき説明。 委 員： 資料1、P.25の主な取組事項「保育ニーズに合わせた保育所定員の確保」について、これは待機が多く保育ニーズの高い地域には保育所を設置するというのか。ニーズが少ない保育所はどうなるのか。 事務局： 保育ニーズに合わせた保育所定員の確保について、現在、令和7年4月1日開園に向けて宝塚南口駅前に保育所を1園整備している。資料1、P.43、P.44に教育・保育の量の見込みと確保方策を記載しているとおり、保育ニーズは下がっていく見込みなので、定員の見直しも必要と考えられる。ただし、現在は、弾力運用を活用して定員を拡充して受け入れている施設があり、その拡充を減らしていくことは想定されるが、保育園そのものや本来の定員を減らすといったところまでの計画とはなっていない。 委 員： 保育士不足については市や兵庫県保育協会でも就職フェア等に取り組んでいるが、人が集まっていない。宝塚市独自の対策が必要ではないか。保育担当課だけでなく、横のつながりも含めた全体的な施策として考える必要があるのではないか。 事務局： 宝塚市では独自に保育所の就職フェアを開催しているが、参加者数は同様に少ない状況にある。そのため、最近駅にチラシを貼る等、PRも行い、その結果、徐々にではあるが参加者数は増えてきている。ただし、保育士確保が十分な状況とは言えないため、引き続き取組を検討していく。 会 長： 保育担当課だけでなく、連携も必要という意見なので、ぜひ検討を進めていただきたい。 委 員： どこの保育士の養成校も学生が集まりにくいという状況になっているが、入学した学生は、子どもの頃に憧れた先生がいて、そうした先生になりたいという思いで、就職を目指して頑張っている学生も多い。免許、資格を取得するために養成校へ進みたいと思う中高生を増やしていく取組も必要ではないか。				

京都市では、保育園だけでなく保育士の養成校も含めた進学・就職フェアを開催し、進学希望の中高生と保育士を目指す大学生や卒業生といった幅広い世代を対象に実施している。幅広い世代を対象としたフェアの開催も検討してはどうか。

委員： 資料１、P.23以降の「子育てと仕事の両立支援」について、宝塚市として処遇改善の取組、例えば、今後、保育士の住宅支援や給与の底上げができると良いのではないかと。また、今は家庭科の授業で乳幼児との触れ合い体験が必須になっているようであるが、中学校・高校と連携し、保育の現場に中高生が入りやすいカリキュラムを考えるのも良いのではないかと。

委員： 一部の私立保育園は独自で高校に出向き、交流を行っているが、年によって積極的に受け入れてくれる場合とそうでない場合がある。保育園から高校に出向いて、保育士の素晴らしさを紹介した後、子どもたちと関わる時間を作っていただく等ができると良いのではないかと。

委員： 子どもが生まれる、育つということを教える命の授業等で、保育所や支援センターが連携している例もあるので、それらも参考にしてシステム化すると良いのではないかと。

会長： 兵庫県の制度でも、乳幼児との触れ合い体験に補助を出すというものがある。今はその制度の対象に保育園は入っていないようであるが、確か来年度から教育委員会とは別に保育担当課でも取り組んでいくようなので、それが活用できるかもしれない。

委員： 若者支援をしているが、20代後半の方は、保育士は大変という理由で辞める人が多い。40代で保育士への就職を目指している人もいて、はたらく応援センターとつなぎ、保育園の砂場整備や子どもの面倒を見るという体験をしてもらっている。実際にブランクを経て保育士に復活される方もいるので、若者支援と保育園等が連携して子どもと触れ合う時間を作るのも良いのではないかと。一般的な就職フェアでは人は来ないと思う。

委員： 令和8年度からの部活動の地域移行について、地域移行の方法や市からの援助等に関して地域に市の考えが伝わっていない。地域は受け皿を作ろうにも何から手を付ければよいか分からないので、市にはもっと旗振りをしてほしい。一つの学校に複数の部活動があるので、全部を地域移行できるわけではないし、集約するとしても、生徒の移動はどうするのか、指導者を探すにも得意分野の人の有無さえ分からない。地域が不安に思っているの、計画書には書けないかもしれないが、そのような意見があることは知っていただきたい。

事務局： 地域移行に向けて、保護者に対する説明会を1月、2月にそれぞれ3回行い、あと1回開催を予定している。その中で現在指導している先生で継続したいという先生の話、スポーツ協会等、種目別、競技別にどう展開していくかという話をしている。市内にスポーツチームが多いほど子どもたちも通いやすくなるので、できるだけ受け皿を増やしたいと考えている。新入生が入学する時期までには、スポーツチームや文化芸術活動ができる施設の一覧をホームページに掲載したいと思っており、引き続き取組を進めながら、随時お知らせできればと考えている。

委員： 公園の公衆トイレに関して、宝塚市内の公園は公衆トイレの併設が少ない。公園には多くの人が集うので、トイレの設置についてももっと検討いただきたい。

事務局： ご意見は担当課に伝える。

委員： 不登校支援について、民間の力を借りるという考えはないか。教育委員会が管轄すると、元の学校に戻ることが最終目標になると思うが、子どもが精神的に学校に行けなくなっているのであれば、学校以外のフリースクール等が良いのではないかと。民間や社協等とも協力して、最終的に社会に戻れるような取組が必要と感じる。不登校は社会的な問題であり、当事者の親だけでなく、地域にも手助けしたいと思っている人はいるので、地域の手も借りて不登校の子どもがまちに出られるようになればそこからまた状況は変わるかもしれない。

会長： 今回の計画への記載は難しいかもしれないが、大事な視点だと思う。次回の計画策定の際は考慮してもらいたい。

委員： 教育委員会と民間のフリースクールが連携をとっているようなので、それを宝塚市でも活用してはどうか。不登校がきっかけでひきこもりになる子どもをなくすためには、

不登校の子どもがフリースクール等で社会とつながるようにすることが必要である。50歳、60歳でもひきこもりになる人もいるので、幼少期からの対策が重要である。

委員： パブリック・コメントの集約件数は前回と比べて多かったのか。

また、産後・育児支援ヘルパー派遣について、市民から「余裕がなかった」「今日、明日だったら何とかあった」といった意見があるが、これは産後・育児支援ヘルパーを派遣するうえで必要な視点か。解決策として周知が必要ということであるが、それ以外に出産後の妊産婦をサポートする取組で必要なものはないか。

事務局： 意見数は35で、カウントの仕方で差が出ていると思うが、意見数としては前回と同程度の規模という認識である。

産後・育児支援ヘルパー派遣については、後日回答する。

→（後日確認追記）産後・育児支援ヘルパーの派遣は、妊娠時に申請いただき、出産後、いつからサービスに入るかの打ち合わせを具体的に行う。その後、出産のお電話をいただいた時に、事前の打ち合わせ通りにサービスに入ってもよいか確認を行う。妊娠時から手続きをしていただくことで、概ね希望通りに産後・育児支援ヘルパーの派遣が可能である。よって、今回のパブリック・コメントの意見への対応としては、一層の周知を図っていく必要があると考え、資料2-2のような回答としている。

会長： 確認だが、養育支援訪問の「6-1」は養育支援訪問そのものだが、以下3つは今回新しく地域子ども・子育て支援事業に加えられた取組か。

事務局： そのとおりである。

（2）答申について

○事務局から、資料3に基づき説明。

会長： 答申案の表紙について意見はないか。

委員： （意見等なし）

会長： 答申案の表紙に計画本体を付けて、答申をすることでよろしいか。

委員： （異議なし）

会長： それでは、全会一致で、この答申案をもって子ども審議会の答申とさせていただく。

3 その他

○事務局より、次期審議会委員に関して説明。

会長、副会長より挨拶。

閉会